

モンゴル支配期イラン地域における 多言語文書資料の歴史学的研究

高木小苗

早稲田大学文学学術院 博士課程・助手

緒言

筆者は、数年来、文書学・歴史学的見地から、モンゴルがイラン高原一帯を支配した時期に発行された多言語複合文書、具体的には、通称「アルダビール文書群」に含まれる13-15世紀にアラビア文字・ウイグル文字で書かれたペルシア語・モンゴル語・トルコ語文書の共同研究を行ってきた。

アルダビール文書群は、現在のイラン・イスラーム共和国の北西部にある都市アルダビールを拠点に興ったサファヴィー教団という名のイスラーム神秘主義教団が保有した諸権益に関する各種文書（同教団に属する動産・不動産の売買文書・寄進文書、歴代王朝の免税・特許文書など）から構成される。サファヴィー教団の名は、同教団の名祖サフィー＝アッディーン・イスハーク（1334年没）に由来し、彼の子孫は後にサファヴィー朝（1501-1736年）を創始した。同文書群は、主に12-20世紀初頭に発行された文書から構成され、アルダビールの都市の中心部にあるサフィー＝アッディーンの墓廟を中心とする建築群に保管されてきた。その後、一部の文書の移管を経て、現在では、同墓廟の博物館のほか、イラン国立博物館（Mūze-ye Melli-ye Īran）、イラン国立文書館（Sāzmān-e Asnād-e Melli-ye Īrān）、ワクフ（イスラーム寄進財）慈善庁やタブリーズの博物館、海外の研究機関などに分散して所蔵されている。

同文書群は1970年にサフィー廟の建築群で発見され、一部の文書の写真画像がヨーロッパに招来された。その後、Gottfried Herrmann氏とMonika Gronke氏をはじめとする諸氏により研究が進められ、ウイグル文字の文面を含むペルシア語行政文書およびアラビア語法廷文書の研究論文と単著が出版されている¹⁻⁴⁾。しかし、このように公刊された文書は、同文書群の一部に過ぎない。モンゴル支配期に由来する文書に限っても、アラビア文字・ウイグル文字複合文書をはじめとして、数多くの未刊行文書が存在する。さらに1979年以降のイラン・イ

スラーム革命をはじめとするイラン国内の政治状況により、原文書の実見調査は長きにわたり困難な状態にあった。そのような状況のなかで、近年、テヘラン大学考古学研究所研究員（当時）の古文書研究者‘Emād al-Dīn Sheykh al-Hokamāyī氏により、イラン国内に所蔵される文書群の調査・解読が行われ、目録が刊行された⁵⁾。同目録は、文書群のすべての文書を網羅するものではないが、その総体的把握を助ける貴重な成果である。

そこで本研究の共同研究者の四日市康博氏（早稲田大学総合研究機構招聘研究員）は、同文書群の目録の著者Sheykh al-Hokamāyī氏を共同研究者に迎え、同じく本研究の共同研究者である松井太氏（弘前大学人文学部教授）、渡部良子氏（東京大学文学部非常勤講師）をはじめとするアラビア文字・ウイグル文字・漢語文書の研究を専門とする日本・中国の研究者諸氏とともに、2009年より国際共同研究を組織した。2008年秋までテヘラン大学に留学していた筆者は、Sheykh al-Hokamāyī氏との連絡役を担当し、2012年の春と秋に、四日市氏とともに、イラン国立博物館で、未刊行文書の実見調査・写真撮影を行った。

本研究の目的は、同文書群の既刊行・未刊行文書のうち、アラビア文字ペルシア語とウイグル文字モンゴル語・トルコ語の複合文書の両面の本文および各種の書込みを解読し、校訂・解題・注釈を作成するとともに、紙面に残された印影の解読・分析を進めること、また文書から得られる情報にもとづき、各共同研究者が各々の専門領域の観点から歴史学的研究を行うことにある。

研究の方法

2012年の実地調査の結果および撮影画像にもとづき、2013年夏より、複数のアルダビール文書とその印影の分析を進め、その研究成果をまとめた英文論文集成を2014年夏に入稿する。この成果の刊行準備のため、国内共同研究者は、2013年度と2014年度に、各文書の分

析について、逐次、電子メールで意見交換するとともに、随時、東京で作業部会を開催する。同時に、各共同研究者は、アルダビール文書と、各自が専門とするモンゴル支配期のイラン高原・東アジア・中央アジアの文書、印章、書記術指南書、史書の対照研究を進める。

なお、Sheykh al-Hokamāyī氏は、在外研究によりヨーロッパに長期滞在するため、遺憾ながら、来日は困難となった。そのため、国内共同研究者は、共同研究の進捗状況と各文書の分析結果を、同氏に電子メールで報告するとともに、文書内容の解釈の確認を依頼し、同氏より総合的見解や助言を得る。またイラン国立博物館との契約にもとづき、英文論文集成のペルシア語訳を博物館に提出し、イランで刊行することとなった。

そのため、英文論文集成の編集作業の終了後、筆者は、2014年内にイランに渡航する。そして現地ではSheykh al-Hokamāyī氏に面会し、文書の分析結果の報告と意見交換を行い、その結果を国内共同研究者に伝える。そのうえでイラン国立博物館の新館長に面会し、研究経過を報告するとともに、論文集成のペルシア語訳の刊行の打合せを行う。また現状では解読が困難な文書（文書の上に別の文書が貼付されている文書など）の赤外線撮影の許可を得て、撮影の手続きを済ませる。さらに博物館の承諾を得られれば、新たな文書の調査・撮影を行う。

結果と考察

以上の共同研究の成果として、2014年夏に、下記の内容の英文論文集成を刊行する運びとなった。

(1) モンゴル支配期アルダビール文書群の調査と整理（イラン・日本・中国共同研究プロジェクトの概要、イラン国立博物館におけるアルダビール文書調査報告）

(2) モンゴル支配期多言語複合文書の基礎的研究：2-1. ウイグル文字・アラビア文字複合文書（未公開文書）：イラン国立博物館所蔵ウイグル文字トルコ語・ペルシア語未刊行文書1点（13世紀発行）の校訂訳注および基礎的研究、イラン国立博物館所蔵ウイグル文字トルコ語・ペルシア語未刊行文書1点（14世紀発行）の校訂訳注および基礎的研究：2-2. 中国様式方形朱印押印ペルシア語既公開文書の再研究（文書の書式・慣用表現、校訂・訳注、印影の分析等）

(3) モンゴル支配期多言語文書から見た多民族社会の歴史的研究：3-1. 書記術指南書にみえるモンゴル文書行政、3-2. 朱印・黒印からみたモンゴル支配期イラ

ン地域の印章制度と中国印章制度の影響、3-3. モンゴル帝国および元朝におけるウイグル文字モンゴル語文書の尊敬様式、3-4. アルダビール文書と叙述史料から見たモンゴル支配期イラン地域の税収分配システムと王族財産の管理体制など

また筆者は、上述の共同研究の基礎的研究として、モンゴルによる東西ユーラシアの支配体制を比較し、イラン地域で施行された徴税システム、税収の分配システム、モンゴル王族の所領・私財の形成とその管理方法の分析を行った。その成果として、報告「13世紀イラン地域におけるモンゴルの支配：財の分配と所有」（シンポジウム「アフロ・ユーラシアの東西交流」於名古屋大学、2013年）を行い、その報告内容（未刊行）と拙稿「二つのディーワーン—イルハン国初期のイラン地域支配をめぐる一」（早稲田大学多元文化学会『多元文化』3号、111-158頁、2014年）を執筆した。

これらの成果を通して、筆者は、モンゴル支配下の中国とイラン地域を比較し、具体的には、モンゴルがイラン地域に設置した財務行政機関（ディーワーン）と同機関により14世紀前半から半ばにかけてイラン地域の都市部において実施された人口調査について再検討した。そして当時の人口調査対象地域と非対象地域を比定し、両地域に施行された税制と税の設定方法を対比した。これらの考察により、モンゴル支配下のイラン地域において、13世紀後半より、住人の頭数に基づき王侯に税収を分配する「属人主義」的な支配体制と並行して、モンゴル支配以前からの既存の徴税システムにもとづき、各地の税収額を王侯に割りつける「属地主義」的な支配体制が導入されていったことを明示した。また、アルダビール文書と13世紀後半から14世紀初めに記された叙述史料の情報を対照して、モンゴル王族の所領、不動産・動産から成る私財の形成過程、それらの私財の管理官と管理機関の配置、私財の目録化の経緯を明らかにするとともに、軍隊とその指揮官に対する税収分配システムの一形態（イクター）の事例研究を行った。

今後の課題

これまで収集した文書画像の分析をさらに深め、個々の文書の校訂・解題を論文として刊行するとともに、年に数回イラン国立博物館を訪れ、未見文書の実見調査と撮影を行い、個々の共同研究者が専門とする歴史学的研究を進める。筆者自身は、財産分配・所有のシステムと、それに基づくモンゴル政権の国家財政と王族財

産の関係について分析を深める。また個々の文書の分析により、将来的には、サファヴィー教団による財産保有と当時の支配者層による教団に対する財産寄進のあり様に迫り、アルダビール文書群に含まれる12-15世紀発行の文書が、教団のいかなる方針・意図のもとに保管され、どのような経緯を経て後世に伝えられたのか考察する。

要 約

アルダビール文書群のうち、13-14世紀に発行されたアラビア文字ペルシア語とウイグル文字トルコ語・モンゴル語の複合文書を解説し、その校訂・解題・注釈、文書に残された印影の解説・分析を進めた。またモンゴル支配期のイラン高原の印章制度と同時代の中国の印章制度の比較、アルダビール文書の伝える情報とペルシア語書記述指南書および史書の伝える情報の対照研究を行った。

謝 辞

本研究の遂行にあたり、公益財団法人三島海雲記念

財団より学術研究奨励金を賜りました。奨励金によって、共同研究の成果である論文集成の入稿のための校閲料・翻訳料、イランで出版された関連書籍の取寄せ、イランへの渡航と博物館における調査が可能となりました。財団の関係者の皆様と奨励金の審査にあられた先生方に心より感謝申し上げます。今後も、本共同研究のさらなる成果を求め、継続的に調査・分析を進めて参ります。

文 献

- 1) G. Herrmann: *Persische Urkunden der Mongolenzeit*, Harrasowitz Verlag, 2004.
- 2) M. Gronke: *Arabische und persische Privaturkunden des 12. und 13. Jahrhunderts aus Ardabil (Aserbeischen)*, Klaus Schwarz, 1982.
- 3) M. Gronke: *Derwische im Vorhof der Macht: Sozial- und Wirtschaftsgeschichte Nordwestirans im 13. und 14. Jahrhundert*, Steiner, 1993.
- 4) M. Gronke: *Arabische und persische Urkunden der Mongolenzeit*, forthcoming.
- 5) E. Sheykh al-Ḥokamāyī: *Fehrest-e asnād-e boq'e-ye Sheykh Ṣafī al-Dīn Ardabilī*, Ketābkhāne-ye Mūze va Markaz-e Asnād-e Majles-e Showrā-ye Eslāmī, 2009.